

第2章 対策編～防災力向上アクションプランの策定に向けて～

防災力向上アクションプランの各段階と目的ごとに具体的な事例を紹介します。以下の事例のほかにもいろいろな方法が考えられますが、ここでは、その一部の事例について紹介します。

A 災害直後の安全確保

地震等の災害発生直後では、まずは安全の確保が重要です。そのためには、日頃からの十分な確認や準備を行いましょよう。

1 住戸内の安全

方法(例)	管理組合の備え	各家庭の備え
家具・家電転倒防止対策等について周知を図る	■	—
家具・家電の転倒防止対策を行う	—	■
家具・家電の配置に配慮する	—	■
ガラスの飛散を防止する	—	■

(1) 家具・家電転倒防止対策等について周知を図る

○地震に際して住戸内の安全を確保するために、家具・家電の転倒を防ぐ必要があります。対策のきっかけとなるように、居住者に対して家具・家電転倒防止対策について周知しましょう。

- ・家具・家電転倒防止マニュアルの作成、配布を行う。
- ・転倒防止対策の要否について点検を呼び掛ける。

[参考資料]

地震による家具の転倒を防ぐには？



総務省消防庁 (<http://www.fdma.go.jp/html/life/kagu1.html>)

家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック



東京消防庁 (<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/hp-bousaika/kaguten/handbook/>)

(2) 家具・家電の転倒防止対策を行う

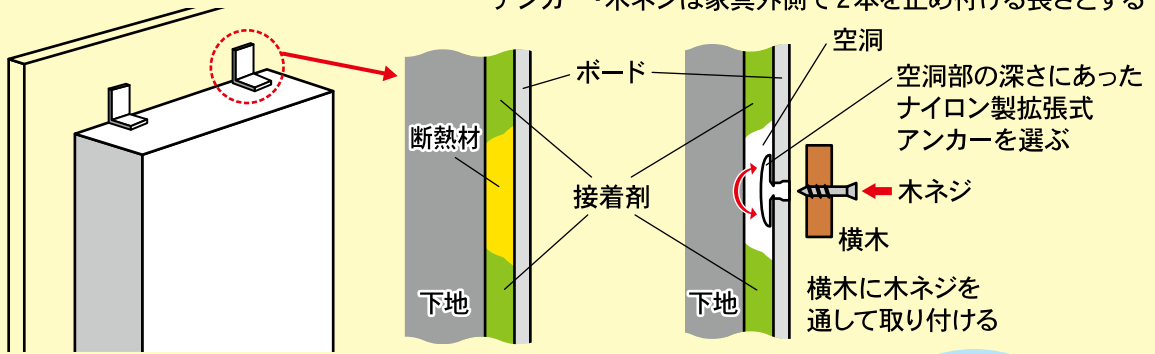
○地震の揺れで、本棚やタンス、冷蔵庫等の大きな家具・家電が倒れると、負傷につながります。大きな家具やテレビ、パソコン等は転倒防止器具を設置するなど、地震に備えましょう。

- ・「L字型金具」や「つっぱり棒」等を使用して、家具・家電を固定する。
- ・「耐震シート」をテレビやパソコンのモニター底に設置する。
- ・重いものは下に収納する。

参考

L字型金具の固定方法

アンカー・木ネジは家具外側で2本を止め付ける長さとする



○マンション居室の壁には棧が入っておらず、壁に直接ネジ止めができないものがあります。拡張式アンカーを打ち込んでボードに固定する等の方法、付鴨居・横木を設置する方法がありますが、壁には多くの種類があるため、専門家に相談することをお勧めします。

(「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック、平成27年3月、東京消防庁」)

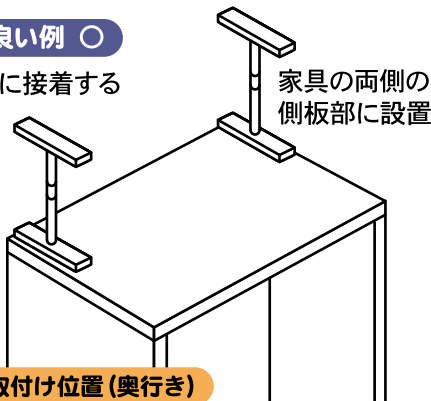


参考

つっぱり棒を使った固定方法

良い例 ○

奥に接着する



取付け位置(奥行き)

良い例 ○

天井との空気が少ない



家具

悪い例 ×

天井との空気が大きい



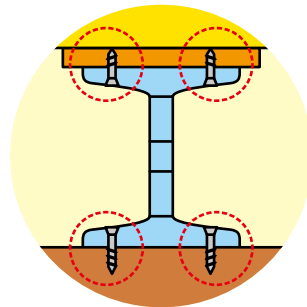
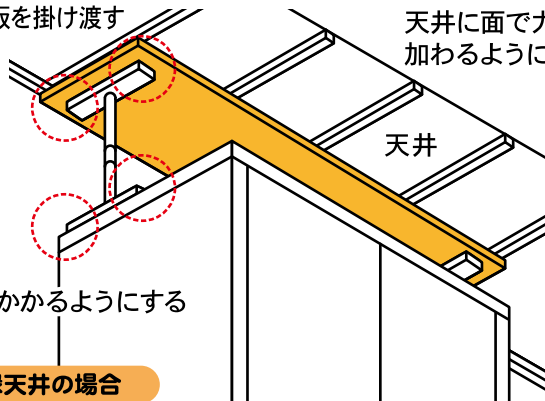
家具

厚めの板を掛け渡す

天井に面で力が加わるようにする

竿縁にかかるようにする

竿縁天井の場合



○部分をネジ止めすると効果が
高い(反対側も同様に行う)。

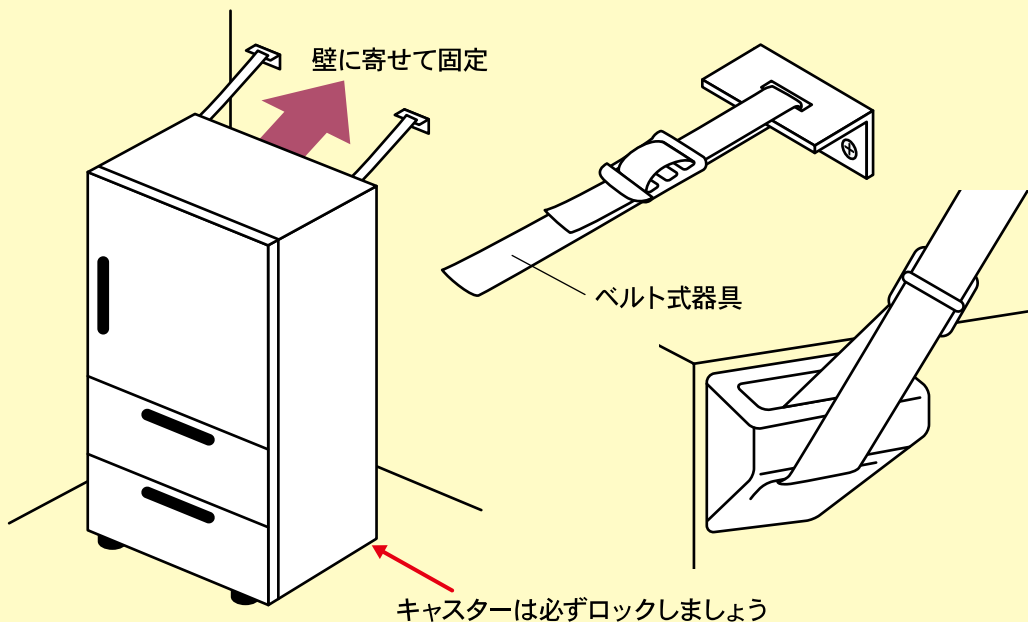
(「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック、平成27年3月、東京消防庁」)

参考

冷蔵庫の固定方法

○冷蔵庫の底には移動用のキャスターが付いているため、地震の揺れで容易に大きく移動することがあります。脚の部分のロックを行うとともに、転倒防止対策を実施する必要があります。

○冷蔵庫の転倒・移動防止には、冷蔵庫の上部をベルトなどで背面の壁と連結することが有効ですが、壁側にネジ止めをする器具の場合は、壁の強度のある部分で行う必要があります。



(「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック、平成27年3月、東京消防庁」)

(3) 家具・家電の配置に配慮する

○大きな家具・家電が倒れると避難路がふさがれてしまいます。避難路が確保できるように家具・家電の配置に配慮しましょう。

- ・寝ている場所に転倒の危険がある家具・家電を置かない。
- ・ドア付近に家具・家電を置かない(出口を塞がない)。
- ・避難動線上に家具・家電を置かない(逃げ道を塞がない)。

(4) ガラスの飛散を防止する

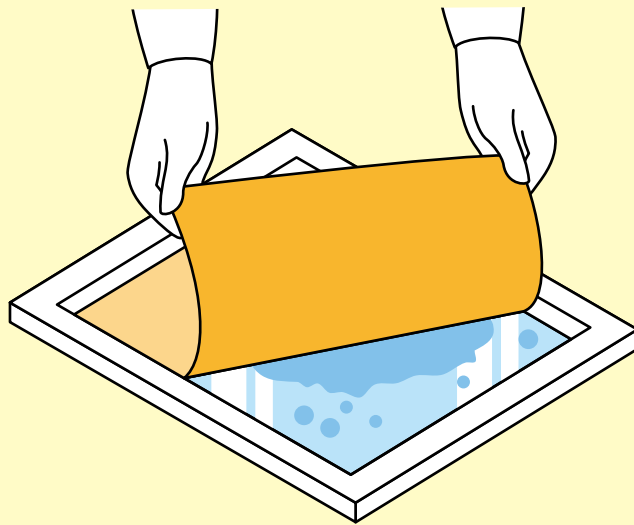
○食器類が棚から飛び出して割れ、負傷につながります。家具等のガラス扉や窓ガラスの飛散防止対策を行いましょう。

- ・ガラス戸や窓に飛散防止フィルムを貼る。
- ・開き戸タイプの家具には耐震ラッチ(留め具)やストッパーを設置する。
- ・吊り下げ型の照明器具は揺れ防止金具で固定する。
- ・ガラス窓を背に家具を置かない。

参考

ガラス飛散防止フィルムの貼り付け

○ガラス戸の両面にはることにより飛散防止効果が高くなります。片面に貼る場合は、外側のガラス面に貼って下さい。霧吹きなどで、ガラスとフィルムに十分な水を吹きかけて貼付します。



(「家具類の転倒・落下・移動防止対策ハンドブック、平成27年3月、東京消防庁」)